

「平成21年度 がんばる地域応援事業」助成事業（浜松市東区）

歴史文化探訪

地域を知ろう ふれあいウォーク

資 料 集



昔は豊年を感謝し祝う祭り 今は地域のふれあいレクリエーション

和田地域文化財と史跡を訪ねる会

刊行にあたって

平成 18 年 11 月 25 日、和田地区社会福祉協議会が設立しました。設立趣旨は、「共に生き、支えあう福祉のまちづくり」です。設立間もない和田地区社会福祉協議会の主催事業として、何から始め どのような方法で推進していったらよいのか暗中模索してきました。郷土への愛着と、郷土の人々相互のふれあいを醸し出すような事業を展開できないものかと…。

「今の世の中、郷土愛がなくても、隣人愛がなくても暮らしていけるよ。『向こう三軒両隣』は薄れつつあり、『隣は何をする人ぞ』の方向に傾き始めている」

「役に立たないもの、あればじゃまになるもの、なければなくても過ごせるものは切り捨て、身軽で便利な生活に指向しやすい」

「そうした中で孤独な人、孤立した人も増える傾向にあるんだよ」

「今までは、行政がすすめる福祉制度や仕組のみに頼りがちであった。住民主体の下からの(住民サイドからの)福祉の改革の必要性が叫ばれ、和田地区社会福祉協議会が設立された。和田地区社会福祉協議会が目指す「住民参加と支えあいによる福祉のまちづくり推進」の素地を成すものは、やはり郷土への愛着と、郷土の人々相互のふれあいではなかろうか」

「福祉の種をまけば、そこから芽が出て 葉が出て 花が咲いて 実を結ぶ。まいた福祉の種が、すくすくと育つような土壌をつくることからはじめよう」

「郷土に目を向け、郷土に魅力やよさを感じる活動。郷土の人々と時を共にし、ふれあいの楽しさを感じるような活動。そんな活動があって、福祉の種が育つ土壌が次第にできていくのではなかろうか」

「何はともあれ、しっかりした素地づくりをすることじゃないかな。しっかり踏みしめることができる土壌ができていないと、『住民の参加と支え合う福祉のまちづくり』も根なし草になってしまう。」

「地域散策史跡めぐりみたいなものを、住民サイドに立って具体化していったらどうかな」

上記は、和田地区社会福祉協議会 企画委員会の協議録から抜粋したものです。

平成 19 年 4 月 1 日、政令指定都市浜松市が誕生しました。区役所から「魅力ある区づくり事業 19 年度事業推進計画」が提示されました。提示内容は次の通りです。

(19. 9 発行 第 5 号 東区協議会だより)

① 東区の魅力発見

東区の未来を考えるには、東区を知ることから始める必要があります。そのため、歴史・史跡を中心に案内パネルの設置や俳句の道、ウォーキングマップ作成などを行います。

② 輝く水と緑のまち 東区

コリドー整備計画を策定し、人と人のふれあい・つながりを深めます。

19 年度の「東区 魅力ある区づくり事業」は、①②を推進します。

和田地区住民の皆さんにとって、区制により行政が身近になりました。そして今後ますます、区づくり事業に関心が集まるでしょう。19 年度「東区 魅力ある区づくり事業推進」の内容は、和田地区社会福祉協議会が実施しようとしている内容と重なります。このことは、和田地区社会福祉協議会の事業を開始する恰好のチャンスとなります。ここで大切なことは、区の事業をそのまま実施してはならないということです。区の事業開始を、あくまでもく和田地区社会福祉協議会の事業開始の契機」ととらえることです。和田地区住民の側にたち、住民主体の独自の事業の開始に意を用いることが大切です。

20年3月29日に「第1回 和田地区探索ウォーキング ～地域を知ろう、ふれあいウォーク～」を実施しました。その折に、参加者全員に配布する「ガイド資料がほしい」という声を耳にしました。

「第2回 和田地区探索ウォーキング ～地域を知ろう、ふれあいウォーク～」では、参加者の皆さんに A4 両面印刷の資料をお分けすることができました。しかし、当日配布する資料では、他町にまたがる内容や詳細な説明を要する内容など掲載できないものが多々あることに気付きました。また、その場に於いて口頭で説明するだけの時間もなかなか確保できません。そのような説明不足を補うために、補足資料を収集し編集することにしました。それがこの度発行した補足説明用の「資料集」です。どうぞ郷土をよりよく知るために、郷土の人たちとふれあうために、この資料を御愛用ください。

なお、東区「水と緑のコリドー整備計画策定」は進行中ですが、計画の確定を予想しながら地域探索ウォーキングのコースに設定しました。

次の二点については、紙上説明を省きました。

- 和田地区内各所に説明板があります。説明板に詳細な説明がある場合は、説明を省きました。
- 仏像・建築などの造形物は、実物を見ながらの説明が効果的です。よって説明は省きました。

「資料集」発行のために、和田地区内の各町内を下見見聞調査をしました。その町ならではの、よさや魅力を感じました。感じ方は、個性的なものです。好みや関心が人によって違うからです。その人ならではの見方、感じ方を大切にしたいです。各人各様の感想をもたれることと思います。このことがふれあいの好材料にもなります。この「資料集」は、人と人がふれあうための話題提起にもなります。この視点からもご利用ください。

以下 私なりの感想を書き並べてみます。

和田町…この辺の郡名は浜名郡→長上郡→長上郡・長下郡→長田郡と遡る。浜松地方最古の寺院礎石が残っている。往古から浜松東部発展の中心部は長田であったことを知り驚く。

天竜川町…人々に愛されてきた巨松。偉大な橋羽のシンボルがあった。後世に伝えようと説明板を立て、写真も展示している。そんな町民の営みに感銘。

篠ヶ瀬町…人々に親しまれてきた聖観世音菩薩。大型の石仏。最新の工具と技術を使って現代に伝える。平成20年3月建立。美しさにひかれた。

北島町…六道地蔵尊・十王堂など丁寧な説明板があり分かりやすい。気軽に入りやすいお寺。

薬師町…ゴミの集積場に町名由来の説明板がある。薬師村青年会建立の道標が傾いていた。平成21年に直し刻字が読みやすくなった。句碑の苔や汚れが落ち文字が鮮明になった。薬師堂を再建中。ありがたいことです。

薬新町…史跡を公会堂西側に集めてある。和田地区外の人たちもこの史跡をよく訪れる。国領石があった場所は二転三転している。よく残したものだ后感心する。

安新町…旧東海道から姫街道に入る入口があり、史跡がたくさん残されている。歴史の香りが残っているまちである。それとは逆に幅の広い道路が何本も通っており歩道橋から下を見下ろすと大都会へ来たような気がする。

安間町…墓碑に明善夫妻の法名が並べて刻んである。身重の奥さんと共に財産献納の申し出のため、政府の最高の地位にある大久保利道に面会に行った時のことを思い出す。自らを「地方の農民」と自称していた明善である。並々ならぬ覚悟で臨んだことだろう。偉人の偉人たる所以。

材木町…「天竜運輸発祥之地」の石碑がある。支店も含め従業員が7万人以上いたという。会社を立ち上げた3人に共通した部分がある。金融通であり、実業家であった。同類は集まるというが、すごい同類の集まりである。

竜光町…顕彰碑は偉人・世人のために業績を残した人など、個人を称えるものが多い。竜光町の「記念」の碑は、村民の総力で神苑拡張 公会堂建設 溝渠改修を成し遂げた村民を称える碑である。思わず拍手を送りたくなった。

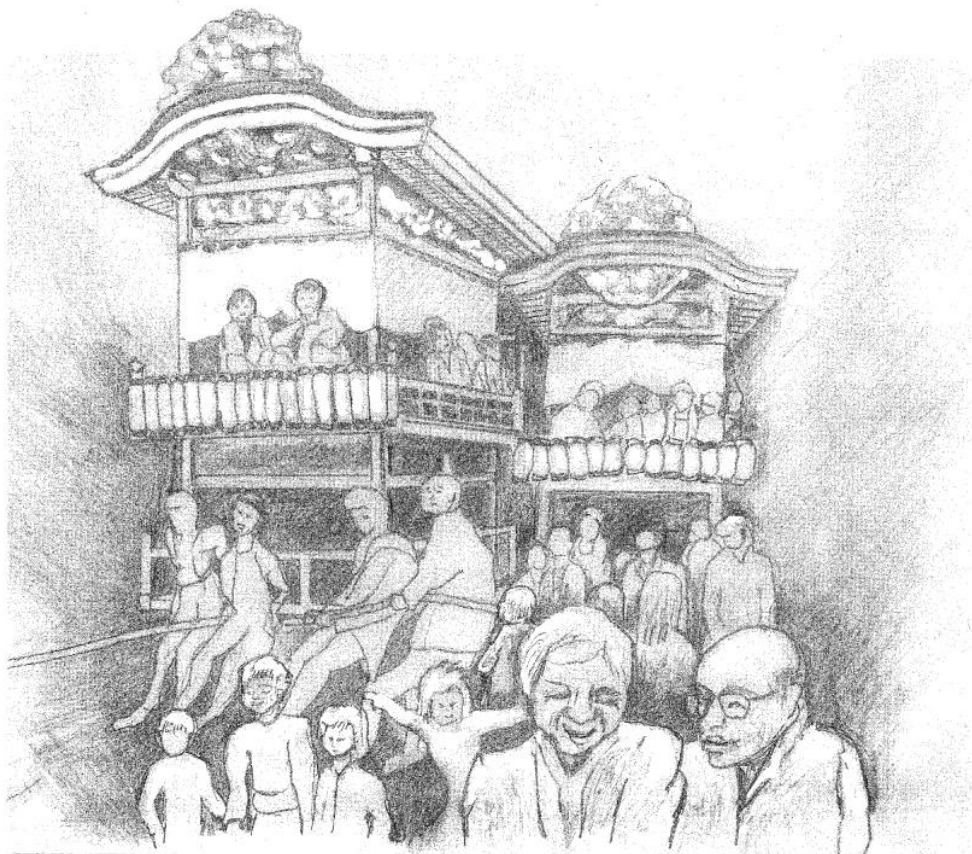
長鶴町…伝統行事を時代の求めに応じて引継いでいる。「時代の求めに応じる」とは、町民の親朴と地域の活性化のことである。疫病蔓延の恐怖があった時代には、祇園祭は夏の風物詩どころではなかったはず。今では神社境内に集まり、真夏の夜の一時を楽しく過ごす催しものとなっている。そのほか、いくつもの町内行事を展開している。

この補足説明用「資料集」の本文編集は、和田地区社会福祉協議会 企画委員会委員が分担協力して執筆しました。もとより史跡調査は全くの門外漢揃いです。時間を費やした割には、思うように前へ進みませんでした。史跡調査は、知らない時代を遡って行く旅です。見たこともないものを探し求めて行く旅です。苦労はありましたが、多少のロマンもありました。ここで、ひとまず編集を切りにします。間違いが多々あるかとおもいます。お気づきの節は、忌憚のない御批正をくださいますようお願いいたします。

各町に調査に出向いた折に、御協力くださいました自治会長さんはじめ地元の方々に感謝いたします。民生委員・児童委員協議会の地域福祉部会の皆さんには、担当町内の調査を引受けてくださりありがとうございました。御協力いただいた方々にお礼を申し上げ巻頭のことばに代えさせていただきます。

平成 21 年 3 月

和田地区社会福祉協議会 企画委員執筆代表 森 本 通



表紙の絵「祭の光景」

当初の表紙絵は竜光町の「神明神社」であった。その後、竜光町の女性の方から、神明神社の祭典は、「どのようにして始まったか」という質問をいただいた。外は薄暗くなり祭の光景が浮かんた。そのときのイメージが表紙絵になった。

「平成21年度 がんばる地域応援事業」助成事業（浜松市東区）

歴史・文化探訪 ～地域を知ろう ふれあいウォーク～

連絡先 和田地区自治会連合会（同連合会長 大石俊康） 事務所内
和田地域文化財と史跡を訪ねる会（代表 村松義信） 電話（053） 421－5723

印刷 （有）K.T 東海印刷
浜松市東区薬師町514

電話（053） 421－0252